

# 2023年度コレクション展 II

## 2023年9月9日（土）－ 12月24日（日）

兵庫県立美術館では、前身の兵庫県立近代美術館（1970年開館）から収集活動を続け、現在10,000点を超える作品を収蔵しています。「2023年度コレクション展 II」では、昨年新たに当館のコレクションに加わった新収蔵作品を主役に据えた特集「Welcome！新収蔵品歓迎会」と、毎年恒例の手で触れて作品を鑑賞できる小企画「美術の中のかたち―手で見る造形」展を開催します。（会期中一部展示替えを行います。）

### 《特集》

【展示室1・2・3・5・6・小磯良平記念室・金山平三記念室】

## Welcome！新収蔵品歓迎会

Welcome Party for the New Acquisitions

### みどころ

- 1 美術館で新歓パーティー？  
新収蔵品の仲間入りを歓迎する祝祭的な展覧会です。
- 2 コレクションから考える「コスチューム」  
同時開催の特別展「Perfume COSTUME MUSEUM」にあわせ、衣服や小物といった「コスチューム」に着目します。
- 3 「美術の中のかたち」同窓会  
今年で33回目を迎える当館の恒例企画「美術の中のかたち―手で見る造形」展。これまでに出品した収蔵作品の中から、登場回数の多いベテランの彫刻作品が集まっています。



① 小出橋重《芸術家の家族》1919年  
令和4年度公益財団法人伊藤文化財団寄贈

### 《小企画》

【常設展示室4】

美術の中のかたち―手で見る造形

## 遠藤薫 眼と球

### みどころ

兵庫県立美術館恒例の、触って作品を鑑賞できるシリーズ展。33回目となる今回は、主に染織技法を用いた制作を続ける遠藤薫(1989-)の作品を展示します。今回遠藤は何か「生まれていく」ことに焦点を当て、触覚・嗅覚・聴覚で体感できる作品を制作します。



（参考図版）Kobe Re:Public Art Project での展示風景

《特集》 Welcome！新収蔵品歓迎会の展示構成と見どころ [常設展示室 1・2・3・5・6・小磯良平記念室・金山平三記念室]

[章構成]

- ・ 勧誘 一どこかで会ったことある？
- ・ コスチューム研究会
- ・ 身体研究会
- ・ 風景愛好会
- ・ 休部 一ただいま不在中
- ・ 美術の中のかたち同窓会
- ・ 体験入部
- ・ 須田剋太交流会
- ・ 小磯良平主宰コスチューム同好会
- ・ 金山平三主宰ポージング&コスチューム同好会

■ 勧誘 一どこかで会ったことある？

作品同士の出会いから、ときに思いがけない関係性やつながりが見えてくることがあります。同時期に制作された作品を比較し、その共通点／相違点を探ります。



② 丸本耕《作品》1966年  
 令和4年度丸本純氏寄贈



③ 元永定正《作品 63-17》  
 1965年 昭和60年度購入

■ コスチューム研究会

コスチュームは、単に身に纏<sup>まと</sup>うものである以上に、時代や地域、文化との関わりの中で社会的な意味や役割を担うものでもあります。作中に登場する衣服や小物、装身具に着目します。



④ 澤田知子《Costume/OKAMI》2003年  
 令和4年度作者寄贈

## 身体研究会

美術表現の原点ともいえるモチーフの一つ「身体」。作家による身体の扱い方を見比べます。

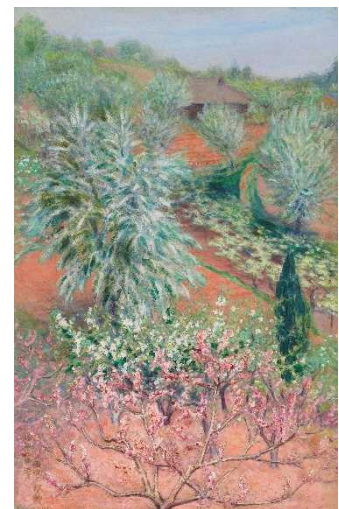
- ⑤ 三尾公三《室の女（版画集『fictionspace PART I』より）》1983年  
令和4年度木村文氏寄贈



## 風景愛好会

風景画において重要な遠近感や空間の広がり、光や風、大気といった形を持たないものの表現に着目します。

- ⑥ 岡田三郎助《桃の咲きたる風景》1934年  
令和4年度公益財団法人伊藤文化財団寄贈



## 休部 一ただいま不在中

そこに「いない」ことが、逆にその存在を際立たせることがあります。様々な「不在」の様態を紹介します。

- ⑦ 吉原英里《M氏の部屋》1986年 令和4年度作者寄贈  
「関西の80年代」展展示風景（撮影：高嶋清俊）





## 美術の中のかたち同窓会

1989年から続く「美術の中のかたち一手で見る造形」展。33回目の開催を迎えるにあたり、これまでに出品された収蔵作品の中から、登場回数の多いベテランの彫刻作品を中心に紹介します。

- ⑧ オーギュスト・ロダン 《痙攣する大きな手》  
1889年（1973年 casting） 昭和48年度購入



## 体験入部

当たり前と思われていることやものに手を加えることで、私たちに新たな鑑賞体験を提示する作品を展示します。

- ⑨ 国谷隆志 《Untitled (Stele I)》2015年 令和4年度大和卓司氏遺贈記念収蔵  
「チャンネル6 国谷隆志 Deep Projection」展展示風景（撮影：草木貴照）



## 須田剋太交流会

戦後関西に起こった様々な美術動向に呼応しつつ、具象／抽象の枠を超えて、独自の表現を追求した須田剋太。木村重信元館長旧蔵品の寄贈を受けて充実した須田作品を、関係の深い作家の作品とともに展示します。

- ⑩ 須田剋太 《抽象》制作年不詳  
令和4年度木村文氏寄贈



## 小磯良平主宰コスチューム同好会

卓抜なデッサン力で数多くの女性像を手がけた小磯良平。「コスチューム研究会」にならって、小磯の手によるモデルが身にまとう様々なコスチュームに注目した作品を展示します。

## 金山平三主宰ポージング&コスチューム同好会

金山平三による人物画には特徴的なポージングや衣装が見られます。また得意の風景画においても好みの視点や構図があります。「コスチューム研究会」「身体研究会」「風景愛好会」にならい、金山の作品を紹介します。



① 金山平三《雪晴れ》 1917-34年  
 昭和52年度三輪きみ氏寄贈

### <関連イベント>

- (1) 学芸員による解説会  
 10月28日(土)、12月2日(土)  
 いずれも午後3時～(約45分)  
 レクチャールームにて(定員60名)、聴講無料・先着順
- (2) こどものイベント ※当館 Web サイトをご覧ください。

### こちらもご注目!

**CHANNEL**  
 HPMA Spotlight Artist Showcase

### 注目作家紹介プログラム—チャンネル14— 吉本直子 いのちをうたう—衣服、痕跡、その祈り

会期：10月28日(土)～11月26日(日)  
 会場：当館アトリエ1  
 観覧料：無料



《白の棺》2021年

注目作家を紹介するシリーズの第14回として、兵庫県出身・在住の現代美術家、吉本直子(1972-)の個展を開催します。人が着用した白い古着を使った立体作品で知られる吉本の作品は、荘厳で儚く、見るものに生と死を感じさせます。

2020年、人間関係が希薄になり、誰もが死を身近に感じた新型コロナウイルスの渦中、吉本は古着から鳥を作るワークショップを発案し、世界各地の人々が参加しました。風に立ち向かい大空に羽ばたく鳥の作品からは、決して失われない希望を感じられるでしょう。本展では関連イベントとして、アーティストトーク、ワークショップ、映像上映などを予定しています。詳細は当館 Web サイトをご覧ください。

《小企画》「美術の中のかたち—手で見る造形 遠藤薫 眼と球」の見どころ [常設展示室 4]

「美術の中のかたち—手で見る造形」は、作品に触って鑑賞できる展覧会として、視覚に障がいのある方にも作品を楽しんでいただくことと、視覚に偏ってきた美術のあり方を考え直すことを目的に 1989 年より一年に一度開催してきた恒例のシリーズ展です。

33 回目となる今回は、主に染織によって制作を行う遠藤薫(1989-)の作品を展示します。日常にあふれる日用品や工芸品。その裏側には、普段通り生きていてはほとんど不可視である、歴史や社会の仕組みがあります。遠藤の作品は、そうした日常の一側面を、自身で制作した工芸品や土地の歴史や人々についてのリサーチを基に浮かび上がらせるものです。今回遠藤は何か「生まれていく」ことに焦点を当て、触覚・嗅覚・聴覚で体感できる作品を制作します。



⑫ (参考図版) Kobe Re:Public Art Project での展示風景

### 遠藤薫

1989 年大阪府生まれ。2013 年沖縄県立芸術大学工芸専攻染織科卒業。2016 年志村ふくみ主宰アルスシムラ卒業。土地に根ざした工芸や生活においてほとんど意識されがたい社会的、歴史的事象を、主に染織技法を用い制作された工芸品や市井の人々へのインタビュー、文献のリサーチなどを基に探求する。作品は、雑巾や落下傘、船の帆といった種々の布や、琉球ガラスや船それ自体にまで至る。それらを作家自身が「使う」ことによって、工芸がもつ両義性や複雑さを明るみに出す。歴史の根本を解きほぐすようなそうした作品群は、沖縄とアメリカ軍や、羊毛産業と軍需産業といった事象にまでも拡張される。

### <関連イベント>

(1) 学芸員によるガイドツアー

9月24日(日)、11月19日(日)

いずれも午後3時～(約45分) ※受付は午後2時30分～

レクチャールームおよび常設展示室4にて(定員20名)、参加無料・要観覧券・先着順

(2) その他のイベント ※当館 Web サイトをご覧ください。



⑬ (参考図版) Kobe Re:Public Art Project での展示風景

## 生まれ変わった落下傘

古くなった衣服を布巾や雑巾に仕立て直すように、布は、何かに使われ擦り切れた後にも、その布の痕跡を残したまま新しい何かとして使われることができます。作家は、こうした布の特性を独自に織り込みながら制作を続けてきました。今回の展示では、作家が過去にジュート麻を用い仕立てた落下傘を、再び、美術には欠かせないある存在に変貌させます。生まれ変わった落下傘の姿を、触って嗅いでお楽しみください。

## 目の前に広がる、眼の前の世界

触ることによって視覚中心の美術のあり方を問いかけなおす本シリーズと呼応して、今回作家は、生命に視覚が「生まれていく」過程までも探求しました。原初的な生物や人間の赤子でさえも、その最初期には視覚を持っていません。触覚や聴覚などの他の感覚の方が、視覚よりも先に培われるのです。それにも関わらず、なぜ今私たちが生きる世界は、視覚が絶対的かのように思えてしまうのでしょうか？作品を鑑賞することで、このような疑問について考える機会とします。

### 当館で開催の展覧会など

- ・特別展「Perfume COSTUME MUSEUM」  
会期：9月9日（土）～11月26日（日）
- ・注目作家紹介プログラム—チャンネル 14—  
吉本直子 いのちをうたう—衣服、痕跡、その祈り  
会期：10月28日（土）～11月26日（日）

### 横尾忠則現代美術館での同時開催展覧会

- ・Yokoo in Wonderland—横尾忠則の不思議の国  
会期：9月16日（土）～12月24日（日）


### Ando Gallery（当館2階）入場無料





## 開催情報

### ■開催情報

展覧会名	2023年度コレクション展Ⅱ [特集] Welcome! 新収蔵品歓迎会 [小企画] 美術の中のかたち一手で見る造形 遠藤薫 眼と球
会期	2023年9月9日(土) - 12月24日(日) ※会期中一部展示替えを行います
開館時間	午前10時 - 午後6時(入場は閉館の30分前まで)
休館日	月曜日[ただし9月18日(月・祝)、10月9日(月・祝)は開館、9月19日(火)、10月10日(火)は休館]
会場	兵庫県立美術館 常設展示室(1階、2階)
主催	兵庫県立美術館
協賛	公益財団法人伊藤文化財団、 <b>サンシティタワー神戸</b> (株式会社ハーフ・センチュリー・モア)、 兵庫県立美術館「芸術の館友の会」
助成	[小企画] 公益財団法人神戸文化支援基金  <b>神戸文化支援基金</b>
協力	[小企画] 日本製麻株式会社、小泉製麻株式会社、 <b>ARK</b>

### ■観覧料

	当日券	団体料金	特別展とのセット料金
一般	500円	400円	300円
大学生	400円	300円	200円
高校生以下	無料	無料	無料
70歳以上	250円	200円	150円
障がいのある方(一般)	無料	無料	無料
障がいのある方(大学生)	無料	無料	無料

※障がいのある方とその介護の方1名は無料

※一般以外の料金には証明できるもののご提示が必要です

※団体(20名以上)でご鑑賞いただく場合は事前のご連絡をお願いします

[コレクション展無料観覧日]

9月10日(日)、9月18日(月・祝)[県内居住の70歳以上のみ]、10月8日(日)、11月3日(金・祝)、4日(土)、5日(日)、11月12日(日)、11月18日(土)、19日(日)、12月10日(日)

※毎月第2日曜日は公益財団法人伊藤文化財団の協賛により無料

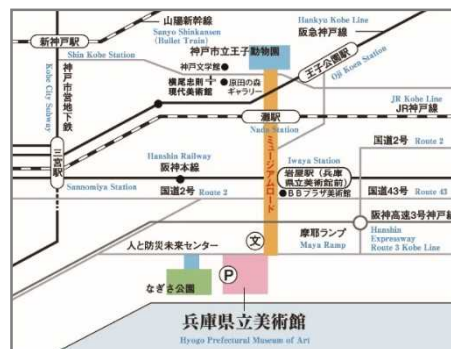
※敬老の日(県内居住の70歳以上のみ)・文化の日を含む3日間・関西文化の日は無料

### ■交通案内

- ・阪神岩屋駅(兵庫県立美術館前)から徒歩約8分
- ・JR神戸線灘駅南口から徒歩約10分
- ・阪急王子公園駅西口から徒歩約20分
- ・JR三ノ宮駅南から神戸市バス(29、101系統)にて約15分、「県立美術館前」下車すぐ
- ・地下駐車場(乗用車80台収容・有料)

※ご来館はなるべく電車・バスをご利用ください。

※団体バスでお越しの場合はバス待機所のご予約をお願いします。





「2023 年度コレクション展 II」 広報画像申込書

兵庫県立美術館 企画・広報担当 宛

E-MAIL : press@artm.pref.hyogo.jp FAX : 078-262-0903

ご希望画像にチェックを入れ、媒体情報をご記入の上、本紙を e-mail または FAX にてお送りください。  
申込確認に数日かかる場合がございます。あらかじめご了承ください。

<input type="checkbox"/>		チラシ画像（裏表 2 枚組）	<input type="checkbox"/>		⑦ 吉原英里《M氏の部屋》1986年 令和4年度作者寄贈 「関西の80年代」展展示風景（撮影：高嶋清俊）
<input type="checkbox"/>		① 小出檜重《芸術家の家族》1919年 令和4年度公益財団法人伊藤文化財団寄贈	<input type="checkbox"/>		⑧ オーギュスト・ロダン《痙攣する大きな手》 1889年（1973年 casting） 昭和48年度購入
<input type="checkbox"/>		② 丸本耕《作品》1966年 令和4年度丸本純氏寄贈	<input type="checkbox"/>		⑨ 国谷隆志《Untitled (Stele I)》2015年 令和4年度大和卓司氏遺贈記念収蔵 「チャンネル6 国谷隆志 Deep Projection」展展示 風景（撮影：草木貴照）
<input type="checkbox"/>		③ 元永定正《作品 63-17》1965年 昭和60年度購入	<input type="checkbox"/>		⑩ 須田剋太《抽象》制作年不詳 令和4年度木村文氏寄贈
<input type="checkbox"/>		④ 澤田知子《Costume/OKAMI》2003年 令和4年度作者寄贈	<input type="checkbox"/>		⑪ 金山平三《雪晴れ》1917-34年 昭和52年度三輪きみ氏寄贈
<input type="checkbox"/>		⑤ 三尾公三《室の女（版画集『fictionspace PART I』より）》1983年 令和4年度木村文氏寄贈	<input type="checkbox"/>		⑫（参考図版）Kobe Re:Public Art Project での展示 風景
<input type="checkbox"/>		⑥ 岡田三郎助《桃の咲きたる風景》1934年 令和4年度公益財団法人伊藤文化財団寄贈	<input type="checkbox"/>		⑬（参考図版）Kobe Re:Public Art Project での展示 風景

●貴媒体の情報をご記入ください。

○媒体名（番組・雑誌名等）  
○媒体種：新聞・雑誌・ミニコミ・TV・ラジオ・WEB・その他（ ）  
○掲載・放送予定日： ○参考 URL  
※WEB 掲載の場合、いずれかに○をつけてください。： コピーガード対応 可・不可

●申請者の情報をご記入ください。

○貴社名： ○ご担当者名  
○所在地： 〒  
○メールアドレス： ○電話番号

●読者・視聴者プレゼント用招待券： 組 名分を希望

※（最大 5 組 10 名まで。本展を媒体でご紹介いただける場合に限りです）

【 画像使用に際しての注意事項 】

○「作家名」「作品名」「制作年」「展覧会名」「所蔵先」「クレジット」などを明記してください。  
○作品画像の加工（着色、トリミング、文字載せなど）はできません。  
○基本情報、画像使用の確認のため、ゲラ・原稿の段階で「企画・広報担当」までお送りくださいますようお願いいたします。  
○掲載媒体を 1~2 部、もしくは URL、同録（DVD、CD）を「企画・広報担当」宛にお送りください。  
○画像使用は本展覧会の紹介用のみとさせていただきます

## 兵庫県立美術館 取材申込書

取材をご希望の方は下記にご記入のうえ、  
取材希望日の3営業日前までにメールまたはFAXにてお申し込みください。

メール : [press@artm.pref.hyogo.jp](mailto:press@artm.pref.hyogo.jp)  
FAX : 078-262-0903

お申込日 年 月 日

### << 取材内容 >>

希望日時	第1希望	年	月	日 ( 曜 )	時	分	～	時	分
	第2希望	年	月	日 ( 曜 )	時	分	～	時	分
	第3希望	年	月	日 ( 曜 )	時	分	～	時	分
希望場所									
企画内容									
カメラ撮影	<input type="checkbox"/> あり (スチール 台 ムービー 台 三脚・脚立 台)								
	<input type="checkbox"/> なし								
取材人数	人								
取材時の代表者名									
媒体種別	<input type="checkbox"/> テレビ <input type="checkbox"/> ラジオ <input type="checkbox"/> 新聞 <input type="checkbox"/> Web <input type="checkbox"/> その他 ( )								
媒体名									
掲載・放送予定日時	<input type="checkbox"/> 掲載	年	月	日 ( 曜 )	時	分			
	<input type="checkbox"/> 放送	年	月	日 ( 曜 )	時	分			

ご連絡先	担当者名	
	社名・部署名	
	住所	
	電話番号	
	FAX	
	E-Mail	

- \* 企画内容によってはご要望に沿えない場合もございますので、あらかじめご了承ください。
- \* 作品の著作権保護や出展作品のクレジット確認等のため、展示風景や作品の画像使用にあたっては、紙面掲載、番組放送前に原稿を確認させていただいております。校正段階での原稿・映像等を事前に広報専用メールへご提出ください。
- \* 掲載媒体を1~2部、もしくはURL、同録 (DVD、CD) をお送りください。

### <取材についてのお問い合わせ>

兵庫県立美術館 企画・広報担当 (政岡・早栗・成松)  
〒651-0073兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1  
TEL : 078-262-0905 FAX : 078-262-0903 Mail : [press@artm.pref.hyogo.jp](mailto:press@artm.pref.hyogo.jp)